

基本方針① 大地が育む豊かな水環境と水循環の保全

- 豊富な江津湖の湧水を確保し、生活・生業とのバランスを保つことで、将来にわたって水量を確保する
- 江津湖の湧水を永続的に活用できるよう、水質を将来にわたって保全する
- 地下水を育む上流域とのつながりや連携を深めることで、“水循環”の大切さを理解し将来に守る

基本方針② 生物多様性の保全と自然と人との共存・共生

- 江津湖が誇る豊かな自然環境と多様な生きもの（生物多様性）を保全・再生する
- 江津湖の生態系を脅かす外来生物の防除を推進する（環境や時代の変化への対応）
- かつての生業によって保たれていた江津湖の環境バランスを考慮しながら、自然と人との共存・共生を図る

基本方針③ 歴史・文化の活用と次世代への継承

- 歴史・文化を通じて、江津湖へ興味を持つきっかけをつくる
- 江津湖の歴史・文化を学び・理解し、その資源を後世に保存・継承する
- 歴史・文化資源を活かしたストーリーづくりにより、江津湖全体の魅力と各地区の連続性・一体性を向上させる

基本方針④ 江津湖の資産・資源の継承と発信

- 自然環境や歴史・文化資源に関する情報を集積することで、効果的な事業展開につなげる
- 関連団体や学校教育と連携した体験型プログラムなどの展開により、江津湖の自然を感じ、学ぶ機会を創出する
- 江津湖での活動を通じてプレイヤーを増やし、貴重な資源を次世代へ継承する担い手を育成する

基本方針① 江津湖のポテンシャルを活かした空間の創出

- 恵まれた自然環境（水辺、花・緑、動植物など）と利用者ニーズを融合した魅力ある“場”を創出する
- 地域資源（美しい景観、歴史、文化）の顕在化を図り、公園空間の質を向上させる
- 江津湖が持つ個性に磨きをかけ、広報戦略と相まって観光客の満足度を高める

基本方針② 適切な公園経営と次世代への資産運用

- 江津湖公園の持つポテンシャルを柔軟な発想で引き出し、資産ストック効果をより高める
- 民間活力を発揮、引き出しやすい環境を整備し、民間との連携の加速による公園の魅力向上を図る
- 得られる収益を、維持管理費用や新たな魅力向上策など、来園者のサービス向上につなげる

基本方針③ 持続性のある運営手法と担い手づくり

- 公園キャストの発掘、働きかけ、キャストネットワークの拡大により、持続可能な運営体制を構築する
- 地域のエリアマネジメント組織による公園運営へシフトする（利用者ニーズの把握と時代への適応）
- 市民・事業者・行政が連携（知恵を絞り）し、公園の利用幅を拡大する

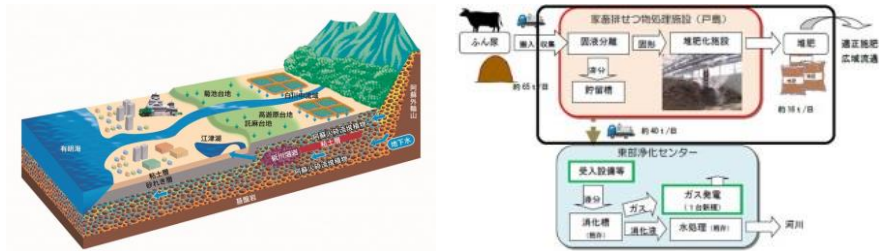
基本方針① 大地が育む豊かな水環境と水循環の保全

変遷・背景

- ・約27万年前～9万年前までに、阿蘇の4回の大噴火により水循環が形成
- ・阿蘇外輪山西麓に降った雨などが地下水となり湧出
- ・水道水源の100%である地下水を利用した生活・生業

現状の課題

- ・地下水かん養域の縮小に伴う、江津湖における湧水量の減少
- ・河川からのゴミ等の流入や硝酸性窒素等による水質の悪化



基本方針

- 豊富な江津湖の湧水を確保し、生活・生業とのバランスを保つことで、将来にわたって水量を確保する
- 江津湖の湧水を永続的に活用できるよう、水質を将来にわたって保全する
- 地下水を育む上流域とのつながりや連携を深めることで、“水循環”の大切さを理解し将来に守る

（施策の方向性）

先人たちが守り育み使われてきた江津湖の礎である“水”を保全し、次世代でもシンボルとして活用する

基本方針② 生物多様性の保全と自然と人との共存・共生

変遷・背景

- ・急激な都市化等による江津湖の荒廃と環境改善への取り組み
- ・昭和40年以降において上江津・下江津で数度の浚渫を実施
- ・“日本の重要湿地500”や“平成の名水百選”に選定

現状の課題

- ・外来生物の繁殖による自然環境の変化（生物多様性の保全）
- ・人の活動による生き物の生息環境の変化（自然と人とのバランス）



基本方針

- 江津湖が誇る豊かな自然環境と多様な生きもの（生物多様性）を保全・再生する
- 江津湖の生態系を脅かす外来生物の防除を推進する（環境や時代の変化への対応）
- かつての生業によって保たれていた江津湖の環境バランスを考慮しながら、自然と人との共存・共生を図る

（施策の方向性）

江津湖の現状を把握し、江津湖本来の生物多様性の保全を行い、自然と人との永続的な共存・共生を図る

基本方針③ 歴史・文化の活用と次世代への継承

変遷・背景

- ・熊本の水田稲作の拠点であり、古くは政治・経済の中心地として発展
- ・藩主の別荘地として、湧水を活かした優れた大名庭園が形成
- ・江津湖に関わる多くの文化人に親しまれる（自然を詠んだ俳句）

現状の課題

- ・江津湖における優れた歴史・文化資源が埋もれている
- ・歴史・文化資源を活用した魅力の発信不足



基本方針

- 歴史・文化を通じて、江津湖へ興味を持つきっかけをつくる
- 江津湖の歴史・文化を学び・理解し、その資源を後世に保存・継承する
- 歴史・文化資源を活かしたストーリーづくりにより、江津湖全体の魅力と各地区の連続性・一体性を向上させる

（施策の方向性）

江津湖の歴史・文化を愉しく学び、新たな活用策を見出し、その資源を次世代に保存・継承する

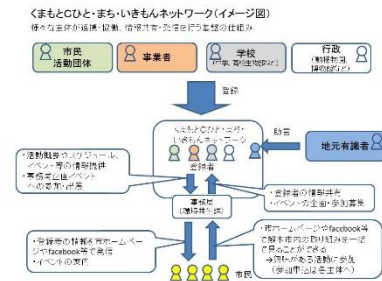
基本方針④ 江津湖の資産・資源の継承と発信

変遷・背景

- ・江津湖の築造により熊本の地下水のシンボルである江津湖が形成
- ・湧水により多種多様な生きものの宝庫が誕生
- ・豊富できれいな水に惹かれて多くの歴史・文化資源が形成

現状の課題

- ・江津湖の環境や歴史・文化資源に関する情報管理が不十分
- ・江津湖の資産・資源の発信不足や次世代へ継承する人材不足



基本方針

- 自然環境や歴史・文化資源に関する情報を集積することで、効果的な事業展開につなげる
- 関連団体や学校教育と連携した体験型プログラムなどの展開により、江津湖の自然を感じ、学ぶ機会を創出する
- 江津湖での活動を通じてプレイヤーを増やし、貴重な資源を次世代へ継承する担い手を育成する

（施策の方向性）

江津湖が有する資産・資源を保全し、魅力的かつ持続的に発信する手法の検討と担い手づくりを行う

基本方針① 江津湖のポテンシャルを活かした空間の創出

変遷・背景

- ・古くは大名の別邸として、川遊びや休息の場として利用
- ・昭和にかけては、子どもたちの遊び場や生活の場として市民と密着
- ・最近では、熊本市民の憩いの場として、多世代に親しまれている

現状の課題

- ・公園管理に重点を置いていたため、市民ニーズを充足できていない
- ・豊かな自然環境と歴史・文化を活かせておらず、公園の魅力が低下



基本方針

- 恵まれた自然環境（水辺、花・緑、動植物など）と利用者ニーズを融合した魅力ある“場”を創出する
- 地域資源（美しい景観、歴史、文化）の顕在化を図り、公園空間の質を向上させる
- 江津湖が持つ個性に磨きをかけ、広報戦略と相まって観光客の満足度を高める



（施策の方向性）

江津湖の持つポテンシャルを活かし、魅力の発信と担い手づくりに寄与する価値のある空間を創造

基本方針② 適切な公園経営と次世代への資産運用

変遷・背景

- ・都市公園法の改正により民間活力を導入した新たな管理手法の創設
- ・熊本らしさを活かしたブランディング不足
- ・熊本地震やゲリラ豪雨を受けた防災・減災意識の高まり

現状の課題

- ・都市公園のストック増加と公園施設の老朽化対策、魅力の向上
- ・財政制約等による公園の整備費、維持管理費の限界



基本方針

- 江津湖公園の持つポテンシャルを柔軟な発想で引き出し、資産ストック効果をより高める
- 民間活力を発揮、引き出しやすい環境を整備し、民間との連携の加速による公園の魅力向上を図る
- 得られる収益を、維持管理費用や新たな魅力向上策など、来園者のサービス向上につなげる



（施策の方向性）

新たな観点で適切に公園を経営することで、次世代に残す貴重な資源の磨き上げと活用

基本方針③ 持続性のある運営手法と担い手づくり**変遷・背景**

- ・行政主導によるまちづくりや「公園を守る」ことに重きを置いた管理
- ・様々なボランティア団体による保全活動や魅力の発信
- ・新たなイベント展開による魅力ある公園空間の創出

現状の課題

- ・イベント実施における制約
- ・江津湖の保全活動を行う人の減少（環境、歴史文化）

**基本方針**

- 公園キャストの発掘、働きかけ、キャストネットワークの拡大により、持続可能な運営体制を構築する
- 地域のエリアマネジメント組織による公園運営へシフトする（利用者ニーズの把握と時代への適応）
- 市民・事業者・行政が連携（知恵を絞り）し、公園の利用幅を拡大する



（施策の方向性）

新たなキャストの発掘と新たな発想による運営体制の構築で、心地よく楽しい空間を持続的に創出